

「利根川水系中川・綾瀬川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

日 時：令和5年4月10日（月）10：00～10：20

場 所：国土交通省 関東地方整備局 江戸川河川事務所

発言者：公述人2

おはようございます。私は草加市在住の■■と申します。私は専門家ではございませんから、一市民の素朴な意見としてぜひお聞きくださるようお願いいたします。

さて、画面に出ているのは越谷の中島地区にあるサギのコロニーの写真ですが、これは私が2007年、かなり前に撮った時の写真です。この時の前後は多くは3,000羽いたという方もいらっしゃるし、これを数えてみると1,000近くいる様子が見られます。

さて、一つ目の意見としては、私どもはこういう考えを持っておりますので、近年の洪水被害を受けて、河川の土砂掘削や樹木の伐採が急速に進んでおります。流域ごとにその効果の違いがあると思われるので、該当の中川・綾瀬川はどういう位置づけにあるかを後ほどお聞きしたいと思っております。それと、河川敷の土砂堆積と樹林化による治水への影響について、また、田んぼダムというのが最近挙げられておりますが、そういうものの治水の効果等も、こういうものは市民がわかっていないので、具体的にわかりやすく国の方で説明していただけるとよろしいかなというふうに思っております。

令和4年に農水省が「田んぼダムの手引き」というのを作っております。皆さんは多分、ご存知だと思うのですが、本当は地域の行政の方が今来ていれば、こういう話を知っているかをお聞きするために挙げたのですが、この中には、「国土強靱化年次計画 2021」であらゆる関係者が協働して行う流域治水とされていて、水田は本来の目的であるお米を作る以外に水を貯えるという機能を大いに持っているということ、それを推進するというのがこの手引きに書いてあります。こういうことを地域の行政の方が知っているかどうかを聞いて見たいのでここに出しました。そして、農水省の「田んぼダムの手引き」を見ますと、なんと中川・綾瀬川水系は田んぼダムが位置づけられています。

都市化が進行する県南東部の自治体にとって、中川・綾瀬川の自然環境は生物多様性の世界目標である30by30というものがありますが、ネイチャーポジティブ、こういうものの中核の拠点というのが中川だと思っております。国ではネイチャーポジティブ、つまり、生物多様性の損失を食い止め、回復させるというネイチャーポジティブをやっておられると思うのですが、流域治水の取組の推進を打ち出している以上、河川整備計画の中で、この考え方をぜひ実施していただきたいと思っております。これが今、申したことでございます。

そして、草加市の現状を知っていただくために、「草加市みどりの基本計画」の中から拾ってまいりました。この左の地図は草加市の全図です。濃い緑と薄い緑は全て緑被地と書かれております。なんと、緑被地の中に、草加では3つ団地があったのですが、その団

地そのものが全部緑色になっているような現状で、これも緑被地という考えで持っているのが行政の考え方。こういうような劣化した自然が草加市の現状ですから、右のところにある中川の河川敷は、多様な生き物がいる貴重な緑被地ということになると思います。そして、草加市の緑被率は、県内で最下位は蕨市なのですが、その次に低いということで、なんと 11.5%しかございません。こういうような劣化した草加の環境については、なんとかこの河川敷を、今のまま残していただきたいというのが、私たちの考えでございます。

さらに、草加市では「第二次環境基本計画」を作りました。その中には、人と自然が共に生きるまち、そして、そういう草加を実現するというので、いろんな総合計画があるのですが、その中に「身近な自然の保全と創造」という項目がありまして、その中に市内に残された自然というのは河川しかないというようなことが書かれております。生き物の生息空間として、あるいは自然に親しむ空間として活用できるものは、もう河川しか残ってないよというぐらいに書いてあります。この草加市の緑被率を維持するため、劣化させないためには、中川の空間が絶対に必要なものですから、国で推進している 30by30 を達成するためにも、ぜひ残すようお願いしたいと思っております。

ここに書かれていますように、草加の自然は河川だけが頼りというのが現状です。「生物多様性そうか戦略」の中にも、この策定意義は、河川は生き物の重要な生息場所であり、保全とか再生、創出が必要だということが明記されています。また、次の世代を担う子どもたちに残さなければならないものだということも明記されております。

さらに5市1町の市町さんが宣言文を前に撮った写真がございます。これは草加市が周辺5市1町と共に「ゼロカーボンシティ」を共同宣言しました。この「ゼロカーボンシティ」に見合うような自然を、国の方も考えて残していただきたいと思っております。

さて、グラウンドなどは、実際にはうんとお金を出せば買える土地で作られるものですが、ところが、多様な生き物が生息する場所というのはお金を出しても買えません。作れません。出来っこないことを将来世代のために絶対にやらないでいただきたいと思っております。それから、ゼロカーボンに関係するのですが、こういうものを河川敷に作りますと、公共交通機関がほとんどない場所に作られるわけですから、地球温暖化に反するようなことが起きてしまわないように、ぜひ貴重な、今ある河川の自然を壊さないでいただきたいと考えております。

ここでご紹介するのは、草加の中川周辺に生きている生き物たちの一部です。猛禽類としてはご存じでしょうけども、オオタカとか、ノスリとか、それからここにあるハヤブサ、それからチョウゲンボウなどが飛来しています。中でもですね、ここにあるオオタカは、昨年、一昨年と草加の松林に営巣しました。ところが、残念ながら繁殖に至らないで放棄してしまいました。今年はどういうわけか営巣すらしていません。それで、キジとかタヌキとかがこの地区には生息、生育しています。それと、これは去年の情報ですが、去年、中川の河川敷、これは越谷の武蔵野線の鉄橋の周辺、それから草加の柿木地区でホンドリツネを見た方が三人いらっしゃったのです。残念ながら写真が撮れてないので、ここには

他の場所で私が撮った写真を挙げさせていただきましたが、この河川の環境を維持すると、またさらにいろんな生き物が復活してくるという一例だと思ってご紹介いたしました。

最後の意見としては、最初に出しました写真の中島地区のコロニーの話です。これは下段にあるように県内で、最大規模で最も安定している中川のサギ類の集団営巣地であるとされています。これも現状では久喜にもともとあったサギのコロニーも、民地に近いためだんだんなくなりまして、もうここが埼玉県最後の営巣地ということを言われております。したがって、現況を可能な限り保全することは第一でございますが、もし低減措置あるいは代償措置を取る場合には、治水工事を始める前に時間をかけて丹念にコロニーの動向を調査・把握し、保全対策の検証・検討を十分に行うべきと思っております。

そして、ひとつ、物移したという一例で成功例は、国土交通省が昔、中川の鶴ヶ曾根地区に新堤防を作るときにノウルシの移植をしていただいたのですが、このときに長い間をかけて移植実験をしながらやってもらった結果、今でもその様に咲いているという事例があるので、ぜひともサギのコロニーについてもこのように慎重にやっていただきたいというお願いです。

それから、ここに書いてあるのは、現況を可能な限り保全すること、それから、工事は営巣中には絶対行わない、それから、サギの繁殖代償措置の成功例があったら示してください。やむを得ずやる場合には、数年かけてモニタリングをして、適地が決まってから必ずやるということ。そして、これは素人の考えなのですが、適地を求めるために、竹林の創出。これは五年ぐらい経つと竹林ができると言われてるので、実験的にやれたらなと思っております。

これはちょっとショッキングな事故がありました。サギコロニーで最近起こった事故です。このように、ナイロンテグスがこのコロニーの竹林の上に張られていました。それからもう一つ、これはこういうようなマネキンの首がぶら下がっていました。これは警察によって取り除かれました。

最後に、国交省ではネイチャーポジティブな流域治水の取組の推進を打ち出しておられると聞いておりました。河川整備計画に基づく事業も、この考え方に沿って実施していただくようお願いいたします。

以上で、私の公述を終わらせていただきます。ありがとうございました。